

大熊町を

端から端まで

知りつくそう!

●第9回 郵便局

ふるさと 再発見

公共施設を訪ねて

郵便局の変遷

大化二年(六四六)

駅制が施行、諸国に駅馬(急用のとき)・伝馬(事急でないとき)一日の行程約一二里)を置き駅鈴・関契・伝符をつくって公用の便に供した。

鎌倉時代になると飛脚が出現し江戸末期まで続いた。

明治四年三月一日から新式郵便の制度が施行された。

郵便業務は、明治五年七月一日全国的に郵便取扱所が開設されたが、大熊町においては、明治三十四年熊町郵便局が熊町受取所として発足、内国為替貯金、特殊郵便物の事務を開始したのが始めであり、広範な地域を抱えて不便であった。

しかし明治四十五年七月一日大野郵便局が開設(下野上字鮎沢二

十六)され、ここに二局並立の形で不便は解消し、真に住民のための郵便業務に取り組んできた。

当初は郵便、内国為替貯金で始められたが、年次を追って電報・電話・保険・年金など事業の内容も複雑多岐にわたり業務量も増加の一途をたどった。

局内人事を充実するとともに機械の導入などを取り入れ業務の合理化を図りながら、事務的確迅速を期してきた。

小山さんの話

二十歳の頃から大野郵便局にお勤めの小山吉範さんにお話を伺いました。

郵便局での私の仕事は内勤だったのでエピソードらしいものはないのですが、配達の人にはおもしろい人がいたよ。

彼は餅が大好きで、配達中にふるまわれる事が結構あったらしい。昔はよく餅をついて食べたからね。大好きな餅を食べ過ぎるのか、翌日はいつも休みだった。それがあまりにも続くので首になっては大

変と注意したら、慎んだのか休まなくなつた。もう一人の集配人は、

体調を崩すと、富岡のおがみ屋に行つてしまうので、いつまでも出勤してこなくて困つたよ。

今はバイクや車だが、昔は徒歩だった。正月には朝の暗いうちから提灯つけて配達したんだ。

現在のような年賀葉書はなかったが、年始の挨拶状は出す人がいたからね。

外勤の人は、寒さの中を配達するのは大変だったが、元旦の配達はそのしみもあった。

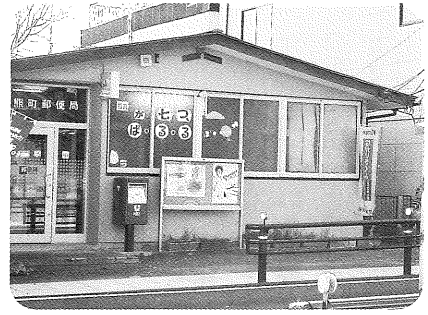
「配達さんおめでとう。今年もよろしくな。」と和紙に包んだ「御祝儀」をもらうととてもうれしかったもんだ。

入局して何年か後に赤い自転車が導入された。がっちりした自転車で、覚えている人も多いと思う。

局内には宿直室があった。事務員一人と朝の郵便列車に郵便物に乗せるための集配人一人が泊まっていた。上野を真夜中に発つた下り列車が大



▲昭和47年当時の新築移転した大野郵便局舎前にて



▲熊町郵便局



▲大野郵便局

野駅に着くのが六時頃で、列車の最後尾に郵便専用貨車があったんだよ。逆に上り列車は一番前にあった。今は車だね。

電話交換業務もあったよ。私が入った時は一番（役場）だけだった。その後徐々に増えていったが、高価だったから昭和三〇年で五十数件だったね。

たね。その頃に電話公社に業務が移って局から離れたけど。新潟の地震で思い出したよ。昭和十二、三年頃、局長さんのお母さんの葬儀の時、大きな地震があつて、すぐ近くの竹やぶに逃げ込んだ。局長さんの家の隣が局舎で今のように入家は建て込んでいなかったからね。のどかな時代だったね。

局で年中無休です。町内には他に無集配の熊町郵便局、野上と夫沢に簡易郵便局があり窓口業務は同じで、カレンダー通りの営業及び業務を行っております。ポストの数は市内五ヶ所、市外十四ヶ所ありますが、回収時間が様々ですので、早く相手に届けたい場合などご注意ください。

現在の大熊郵便局長さんのお話

大野郵便局から大熊郵便局に改称されたのは平成六年四月一日です。ここは集配特定

集配人の休憩所があるのをご存知ですか。町内に三ヶ所野上、夫沢、熊町にあります。お昼時、赤いバイクが停まっていたらそこが休憩所です。わざわざ局に戻るより効率的なのです。

郵政年表

明治一九年	三月二六日	郵便局など一、二、三等に分ける	
二五年	六月一七日	小包郵便法を公布	
三二年	四月一日	郵便料金改定（三銭と一銭五厘）	
三八年	二月一六日	郵便貯金法を公布	
三九年	二月一日	郵便振替貯金の創業	
	八月一日	日米間に国際電報を開業	
	八月一日	速達郵便を京浜間に実施	
大正	四年	六月二二日	無線電信法を公布
	五年	一〇月一日	簡易保険の創業
	四年	四月二〇日	航空郵便の取扱開始（試行）
	一五年	一〇月一日	郵便年金の創業
昭和	九年	四月一日	郵便料金改定（四銭と二銭）
		八月一六日	速達郵便を全国に施行
	二二年	一月三〇日	郵便貯金法を公布

熊町郵便局の沿革

昭和二四年	六月一日	郵政省・電気通信省が発足	
三七年	四月二七日	簡易年金福祉事業団発足	
四三年	七月一日	郵便番号制実施	
明治三四年	三月一〇日	熊町受取所として開設	
三九年	三月二六日	熊町郵便局と改称	
四五年	七月一日	無集配局となる	
大正	一年	一月二六日	公衆電話設置され通信事務を開始
	四年	七月一六日	国内電信を開始、電報配達を取扱う
	五年	一〇月一日	簡易保険事務開始
昭和	一五年	一〇月一日	郵便年金事務開始
	八年	一月六日	電話交換業務開始
	一六年	九月三〇日	外国小包引受（満州・中華民国）局舎新築

大野郵便局の沿革

明治四五年	七月一日	大野郵便局（集配、特定）が開設	
大正	五年	一〇月一日	簡易保険事務開始
	八年	二月二二日	国内電信を開始、電報配達事務を取扱う
	一五年	一〇月一日	郵便年金事務を開始
昭和	二二年	八月一六日	速達郵便取扱開始
	一三年	二月一六日	電話交換業務開始
	一五年	一〇月一六日	木造二階建て局舎新築移転（下野上字大野五〇二）
	一六年	二月一日	三等郵便局を特定郵便局と改称
	二六年	四月一日	放送委託業務取扱集金事務開始
	三二年	一〇月二七日	郵便局舎新築移転、互助会特定局となる
	四一年	二月一日	夫沢に簡易郵便局設置
	四一年	一月一六日	東電福島原子力発電所に郵便私書箱設置
	四二年	二月一日	農村集団自動電話開設
	四二年	二月一日	野上に簡易郵便局設置
	四二年	一月三日	鹿島建設に郵便私書箱設置
	四六年	四月二三日	農村集団自動電話が大熊電話自動改式
	四八年	四月二三日	日本揮発に郵便私書箱設置
	五三年		普通電話に切換えられ、電話交換業務は富岡電報電話局に合併、自動化された